

学 位 論 文 要 旨

研究題目

Adenosine Deaminase in Pleural Effusion and Its Relationship with Clinical Parameters in Patients with Malignant Pleural Mesothelioma

(悪性胸膜中皮腫における胸水 ADA 値の臨床的有用性に関する検討)

呼吸器・血液内科学 (指導教授 木島 貴志)

氏 名 中島 康博

悪性胸膜中皮腫 (MPM) は比較的稀な疾患であり、胸膜の漿膜に発生する中皮細胞由来の悪性腫瘍で、罹患者数、死亡者数ともに増加している。また、石綿の曝露と因果関係があり、石綿消費量の増大に伴う発生頻度が報告されている。MPM の診断は胸腔鏡下胸膜生検による病理診断を必要とするが、早期発見が非常に困難であり、高齢者や他の基礎疾患を有する患者の場合は施行が困難な場合も多い。MPM では胸水の出現が特徴であるが、胸水細胞診にて中皮腫の確定診断に達する症例は中皮腫のうち約 30%留まるといわれており、こちらも有用性があるとは言い難い。胸水 ADA 値が結核性胸膜炎で高値を示し、感度、特異度はそれぞれ 90~100%、89%~100%であったと報告されているが、膿胸、悪性リンパ腫、MPM でも胸水 ADA 値が増加するとの報告があり、特に MPM と結核性胸膜炎との鑑別が問題となる。そこで我々は MPM 患者における胸水 ADA 値の他疾患(肺癌、結核性胸膜炎以外の良性疾患、その他の悪性疾患、結核性胸膜炎)との鑑別における意義を検討し、また MPM 内(組織型、進行度)における胸水 ADA 値の比較および胸水 ADA 値による予後の差を検討した。2002 年 2 月から 2013 年 7 月までに当科において胸水穿刺を施行し胸水 ADA 値を測定した 329 例を対象に retrospective に解析を行った。患者背景として MPM131 例、肺癌 117 例、結核性胸膜炎以外の良性疾患 54 例、その他の悪性疾患 20 例、結核性胸膜炎 7 例であり、胸水中の ADA 値を比較したところ、MPM では胸水 ADA 値の平均値は 32.29IU/L で中央値は 26.50IU/L であり肺癌・結核性胸膜炎以外の良性疾患と比較し高値であった。組織型別にみた胸水 ADA 値では上皮型とそれ以外で有意差はなく、進行度別に見た胸水 ADA 値では IMIG 分類 T4 とそれ以外で有意差はなかった。また様々な cut-off 値を設定し胸水 ADA 値の生存比較を検討するも有意差は認められなかった。

初期の MPM は集学的治療で治癒する可能性があるため、中皮腫の正確で迅速な確定診断は非常に重要であり、胸水 ADA 値が高値の症例では MPM も鑑別診断に挙げ、積極的な胸腔鏡下胸膜生検による精査が必要であると考えられた。